第４回　邑南町地域コミュニティのあり方検討委員会　議事録（意見集約版）

日　時：令和４年10月24日（月）　１８：３０～２０：３０

場　所：出羽公民館　ホール

出席者：委員15名（作野広和委員長、日高輝和副委員長、井上英司委員、古田五二嗣委員、小田博之委員、品川隆博委員、橋本茂委員、森脇和代委員、鳥居清枝委員、和田康司委員、日高弘之委員、小笠原文夫委員、甲村正樹委員、瀧田均委員、皆田潔委員）※３名欠席

事務局６名（田村哲（地域みらい課長）、大賀定（総務課）、小笠原誠治（福祉課長）、三上徹（生涯学習課長）、湯浅孝史、上田直明、秋本啓太（地域みらい課））

１．開会あいさつ

作野委員長：前回の委員会から期間が開き、地域の若者の声を聞く会など、内部での検討が進んだ。スピードアップした感じがするかもしれないが、委員の意見を反映しないという意味では決してない。今回の会議を踏まえて中間まとめの見通しを持つ。ご審議をお願いしたい。

２．事務局より資料説明

（１）【資料１】想定する成果物とスケジュールについて

事務局：前回示したものから、目次案「４．地域運営組織の重点機能」を追加した。「６．地域コミュニティ再編の実行計画」も追加している。公聴会の日程も１１月に追加している。

（２）【資料２】基本方針概要（中間まとめ）について

事務局：（資料内容について説明）

空欄になっているところは、今後ご議論いただきたい内容。

作野委員長：委員会の検討結果の概要版を想定したフォーマットであり、今回ご議論いただく内容を踏まえて中間報告として盛り込みたい。表出のしかた、どこまで盛り込むか、中間報告としてこういった内容でよいか等を協議したい。前回は地域運営組織を作るということで方向性が立ったので記載している。拠点については次回以降で議論することになるので、空欄としている。この時点で質問、意見をいただきたい。

・地域運営組織の重点機能で、文章と囲みで順番が違うので、揃えると良い。
→事務局：ご指摘の通り。文章を修正し、安心づくり、地域づくり、人づくりの順番とする。

・３階層を２階層にというところで、雲南市はまちづくりセンターになったということだが、公民館がまちづくりセンターになるということか？
→作野委員長：今後議論する。地域運営組織ができると公民館がまちづくりセンターになる、ということではない。

・２ページに会長、副会長、役員会などと書いてあるが、これは何の組織か。
→作野委員長：地域運営組織だ。

・まちづくりセンターになった時のイメージが湧かない。
→作野委員長：そのことについてはまだ議論していない。今の公民館組織や公民館活動推進協議会はどうするかについては第５回で説明、議論する予定。

（３）【資料３】会議資料　地域コミュニティの組織体制について
事務局：（資料内容について説明）

・９枚目のスライドにある、邑南町版地域運営組織の定義について、地区別戦略でも定義されていなかったか。それとの整合性はどうか。
→事務局：まち・ひと・しごと総合創生戦略では、地域運営組織について記載はしていたが、定義はしていないと把握している。
→作野委員長：地域運営組織は一般名詞となっており、既存の地縁型組織とは異なるオルタナティブな組織という程度の意味で、具体的にどういう組織形態で、何をどこまでやるかというのは各自治体、各地域運営組織によって異なると理解していただければよい。

・14ページの集落との関わり方について、３通りあるということか。
→事務局：豊岡市の資料を参考に作成した例。
→作野委員長：これは例として３つ挙げているのであって、それ以外にも考えられるということだ。本当は４通りあり、自治会と地域運営組織が別組織として連携していくという形。それは理想的でないので、最初から排除している。

・４ページの組織の形について、自治会と地域運営組織が一体のイメージとなってい

るが、自治組織と地域運営組織は分けた方が良いと思う。専門家集団として地域運営組織がないと、自治会と同じで役員のなり手がいなくなり、予算執行にも手間と時間がかかる。ごちゃまぜにすると、従来と同じ自治会が大きくなっただけになると思う。

提案のあった形は理想的ではあるが、一緒に議論しようとなると難しいと思う。

すでに、月１回の常会もできない集落が出てきているという実態がある。

→作野委員長：邑南町の自治会の形はある程度型にはめられているが、地域運営組織では 12 地区で 12 通り、各地域に合わせた形を担保する。

→委員：12 通りといっても、あまりにバラバラの形になるより、ある程度型があり、その派生型があるという形が良い。実行機能は別組織で、自由度の高い活動ができるというやり方も踏まえて検討すべきだ。

・邑南町版地域運営組織の定義づけが大事。現状では実行組織が自治組織とは別で動いている地区もあるが、今回提案のあった定義では地域運営組織の定義から外れてしまう。

→作野委員長：12 通りを担保する表現が必要。次回以降も含めて議論していくべき内容。資料の「地縁でつながり」という表現が、いい面が多いが問題となる面もある。

（４）【資料４】若者の意見を聞く会について

事務局：（資料の「所感」について説明、ワークショップ結果について説明）

作野委員長：前回検討委員会や、７月のキックオフイベントなどでも、次世代を担う若者の声を聞くべきだという意見があり、２地域で実施された。所属意識が地区ではなく集落に強いという点が意外だった。集まった方にもよるが、石見地域と瑞穂地域では地域性が出ている。

・どちらかというと、予想通りという感じがしている。若い人は、地域でやることの重要性や必要性を感じておらず、地域に関わらなくても暮らしていけるので、関心がないのかなと思う。時代が変わって、これまで続けてられてきたたことを、必要かどうかを疑問に感じていると思う。

→作野委員長：大人たちが、慣行的な地域行事や仕事を、形骸化しているものもある中で続けているので、若者が興味を持っていないということがリアルに結果に出ていると思う。集落レベルでも慣行的な行事などを見直す必要があるだろう。

（５）【資料５】委員意見シートについて

事務局：前回終了後に意見シートの記入を委員に依頼し、回答をいただいた。（資料要点について説明）

作野委員長：地域運営組織を作ることに対してはおおむね賛成いただいており、行政側への意見や、人材育成、教育、若者参画などに関する意見が多かったように思う。概ねごもっともなご指摘をいただいた。

３．意見交換

作野委員長：意見交換に入る。出口としては、地域運営組織の組織体制についてだ。具体的には資料３の最後のところに論点を出している。地域運営組織のあり方については、今日しっかり議論をして、中間報告に盛り込みたい。

・組織の体制はしっかり考えられてできているなと思う。資料３の 18 ページの地域計画で、組織を発展・維持していくために住民ワークショップの実施がとても大事だと思った。ただ、組織を作るためにワークショップを開くことを紙面で地域に伝えるだけでは、人が来なくて、今の組織の人ばかりがきて何も変わらないということが起きうると思う。
地域計画だけでなく、何をするにしても住民ワークショップのようなものを開き、これまで参加してなかった人が参加したり、今までなかった意見や、ずっと思っていたことを言ってもらったりする場になると思う。面倒でも電話連絡などで周知することが大事だと思う。行政からも、住民ワークショップを成功させるための支援が重要だと思う。
→作野委員長：周知方法や、住民参加や合意形成のあり方については委員の方からもお知恵をいただきたい。

・作野委員長：一番根源から見直していかないと、慣例的なやり方が改まらないと思われるため、地区レベルの組織を作るにあたっても、集落での話し合いによる見直しが必要と考える。

・財政支援の話で、こういうことをしたいとなった時に、財政的な裏付けが必要になる。特にこれから財政が厳しくなってくる中で、考えていかないといけないと思う。
→作野委員長：資料では、財布の幅は同じでも出し方が違うということだ。地域の裁量を高めるという内容。他の自治体では、地域運営組織を作るときに補助金をアップしているところもある。ただ、長期的に見ると厳しくはなるだろう。出し方については検討していかなければいけない。

・若者の意見を聞く会の結果を聞いて、この若者たちが次の世代として組織を作るとなった時に、世代交代をどうしていくかが大事。資料３の 17 ページに地域計画づくりについて記載があるが、計画の見直しとともに組織の見直しもあって良いと思う。次の世代がやりやすいように、同じ形で続けていくのは難しいかもしれないので、検討があってもよい。
見直しがしやすいスケジュールも併せて作った方がよい。確認のステップも置いておくと、より見直しが図られるのではないか。
→事務局：資料の「５年単位」というのは、地区別戦略や町の計画に合わせて、模式的に記載している。特にそうしなければいけないというわけではない。時代の変化に合わせて短くしてもよいし、負担が大きければスパンを長くしてもよい。

・邑南町版地域運営組織の定義について、若い人が入ってきやすいような定義も必要。「課題解決」という言葉が続いていくと重荷になると思うので、地域の将来を作っていくんだというニュアンスの言葉が入るようにするとよい。
→作野委員長：次の世代を担う人たちが、地域への所属意識や課題解決の担い手であるという認識が現状では薄い。今後もそういう地域課題解決に向き合っていくのだろうかということは、中長期的に見ると非常に重要。若者に限らず、個人の課題と地域の課題がずれてきている。かつては地域の課題を解決しないと個人もよくならないという社会だったのが、分かれてきている。そうなると、所属意識を持って暮らしていこうという方が少なくなっていく。
→事務局：総合振興計画や総合戦略の検討段階で、多くの人の希望が反映されるように改善し、実行していく。

・作野委員長：他の自治体では、縮充というスタイルを取ろうとしているところがある。現行の自治会をなくすとなった場合に自治会館をどうするかということも、縮充の分かりやすい例。公のものもあれば地域のものもあるし、もっと狭い範囲での慣行的なものもある。意図的に縮充していくのか、そのままにしていくのか。
→委員：担い手がいなくなるのは必須であるため、一度従来の形を見直して、その中から本当に必要なものを選んでいくということが必要だと思う。
集落、常会は必要だと思う。常会で住民が自主的にしなければならないことを整理すると、会費の集金、集会所の管理、防犯灯の管理、道刈り。現在では道路は地元で草刈りをすることになっているが、常会で草刈りができない集落も増えてきているので、ルールを見直すべき。役員は、会長と会計さえいれば良いのだと思う。１つ１つ点検し、各常会でできないことを地区の組織でサポートしていくという仕組みを作っていく。

・自治会館は、年１回の総会と葬式でしか使っていない。話し合って自治会館は不要となれば、壊すか無償譲渡がよいと思う。
→作野委員長：自治会館については必ずこの委員会でも検討する。

（まとめ）
・作野委員長：今回は、単位集落のあり方、慣例的な役職や行事を一つ一つ見直していくことが必要で、元気になる要素を住民一人ひとりが話し合っていこうということについて議論された。委員の皆さんから特段に大きい異論はなかったので、今日議論したことを資料２にもう少し書き込んで、中間とりまとめとしたい。その内容については事務局と私に一任していただいて良いか。
→一同：良い。

・作野委員長：残された課題としては、特に現行の公民館組織と今後できるであろう地域運営組織との関係をどうしていくのかということ。今後の委員会で議論していきたい。

４．事務連絡

事務局：次回は、１月２３日。その前に公聴会を予定している。11 月 30 日、12 月９日、12 月 11 日。参加者は一般の方。防災無線と広報で周知する。自治会長には直接案内する。

５．閉会あいさつ

日高副委員長：意見をいただき、だんだん核心に迫ってきていると思う。地域運営組織の定義のところは抽象的かもしれないが、組織を民主的に運営し続けていくのは非常に難しいのだろう思う。手間のかかることだと思うが、やっていかないといけないことだと思うし、そこに主体的に関わっていただくために、どんな方に関わってもらうかということもあると思う。平和、人権などがベースにあっての地域運営になっていないと若い人や女性の参加が難しくなる。いかに民主的で楽しく参加できる組織にするかが重要だと思う。次から、公民館がどういう形になっていくのか、ということが議論になってくると思う。長時間ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。